

第7期宇治市生涯学習審議会 会議録

名称	第7期宇治市生涯学習審議会 第8回審議会						
日時	平成28年8月17日(水)午後2時~4時						
場所	生涯学習センター 2階 一般研修室						
出席者	委員	×	岩井 浩	○	小宮山 恭子	○	西山 正一
		○	内田 徹	○	佐藤 るり子	○	林 みその
			奥西 隆三	○	清水 桂子	○	向山 ひろ子
		○	木村 孝		杉本 厚夫	○	森川 知史
			切明 友子		長積 仁	○	六嶋由美子
	事務局	○	藤原 千鶴(教育部参事(兼)生涯学習課長(兼)生涯学習センター所長)				
			瀬野 克幸(教育支援センター長)				
			富治林 順哉(教育支援課長)				
		○	今庄 真樹(生涯学習課副課長)				
		○	前田 暢(生涯学習課主幹兼生涯スポーツ係長)				
		○	高橋 紀子(生涯学習課事業係長(兼)生涯学習センター主査)				
		○	野口 里佳(生涯学習課生涯学習係長)				
			粕谷 祐次(生涯学習課生涯学習係主任)				
	○	太田 悠(生涯学習課生涯学習係主任)					
傍聴者	1名						

会議要旨は、下記のとおりである。

・ 第7回審議会の会議録について

前回の会議録について、以下のとおり修正があったため報告。

会議録4ページ上から8行目

×訂正前：善法青少年センターは市役所の東側の坂を超えたところ、

○訂正後：善法青少年センターは市役所の東側の坂を越えたところ、

会議録5ページ下から3行目

×訂正前：炭山、二尾、池尾の三つの地域が学区で、

○訂正後：二尾、池尾、炭山の三つの地域が学区で、

会議録6ページ上から11行目

×訂正前：・保幼小連絡会では、1年生が昨年までお世話になった保育所と幼稚園の先生を招いて授業の様子を見てもらった。

○訂正後：削除

会議録6ページ下から13行目

×訂正前：・今年度から、放課後に子どもの居場所づくりの一環で笠二っ子クラブを行っている。

○訂正後：・今年度から、放課後に子どもの居場所づくりの一環で平日の笠二つ子クラブを行っている。

1. 報告事項

➤ 第 40 回宇治市障害者スポーツ大会について

(事務局)

平成 28 年 6 月 25 日(土)西宇治体育館多目的アリーナで開催した。参加者は、選手 610 名、ボランティアスタッフ 66 名を含む役員 111 名の計 721 名となった。来賓として、生涯学習審議会から 8 名の委員にご臨席いただいた。

➤ 第 40 回全日本中学ボウリング選手権大会について

(事務局)

平成 28 年 7 月 25 日(月)~27 日(水)キョーイチボウル宇治で開催した。選手は 41 都道府県から 194 名が参加し、京都府からは男子 4 名、女子 6 名の計 10 名が参加した。その内、宇治市からは男子 2 名、女子 1 名が参加した。男女それぞれ優勝者に文部科学大臣杯と宇治市長賞が、8 位までに賞状とメダルが授与された。また、7 月 25 日(月)同会場において、小学生を対象に「ふれあいボウリング」を開催し、29 名が参加した。さらに、スポーツボウリングを目指すボウリング教室として、小学 4 年生から中学 2 年生を対象とする「宇治市ジュニアボウリングスクール」を、平成 28 年 9 月から 11 月の間に計 8 日間実施する予定である。

➤ 平成 28 年度夏休み子ども わくわくフェア(第 15 回)について

(事務局)

平成 28 年 7 月 29 日(金)、30 日(土)宇治市生涯学習センターで開催した。参加対象者は、宇治市内の小学生で、来場者は保護者等を含むと、2 日間で約 1,100 名であった。出展者は、両日 17 団体 17 コーナーずつで、計 34 団体 34 コーナーであった。大学生や市民のボランティアによる、子ども達が学び・遊び・手作りの楽しさを体験できるコーナーが出展された。事前申し込みが必要なものは 15 コーナーであった。

今年は内容を見直し、名称も昨年までの「夏休みこどもフェア」から「夏休み子どもわくわくフェア」に変更した。一般公募から 24 団体が出展し、生涯学習センターから選定した 9 団体と、特別企画として 1 団体に出展を依頼し、事前に費用や内容について協議した。今年度は新規の出展者は無かった。今回は、食品等販売団体として、出展コーナーとは別途に 3 団体に依頼した。参加費は、材料費や食材費の実費相当分として、上限 500 円に設定した。無料と有料のコーナーはそれぞれ 17 ずつの出展であった。

昨年は、出展者と生涯学習センターとの連携不足もあり、子ども達が待っている場面が多かった。また、来場者の測定方法は、昨年は各コーナーの来場者を合算していたが、今年は時間を区切ってカウンターを使い、より実数に近い参加者数を計算した。そのため統計からは、来場者数は昨年より減ったように見える。今年は出展者と事前に調整を行ったこともあり、待ち時間も少なく、全体的にスムーズに進めることができた。

➤ 平成 29 年宇治市成人式実行委員会について

(事務局)

平成 28 年 7 月 7 日(木)に第 1 回実行委員会を開催した。今年度は、男性 3 名、女性 4 名の計 7 名の実行委員が集まった。実行委員長は女性で、立候補により決定した。約半年間をかけて会議等をかさね、準備を進めていく。成人式当日は、平成 29 年 1 月 9 日(月・祝)で、生涯学習審議会委員の皆様にも、ぜひご出席いただきたい。

➤ 宇治市総合野外活動センター来場者 150 万人達成について

(事務局)

宇治市総合野外活動センター「アクトパル宇治」は平成 11 年 6 月に開設し、本年 8 月 10 日に通算で来場者 150 万人を達成した。平成 28 年 8 月 11 日(祝・木)アクトパル宇治主催事業「ありがとう 150 万人! 山であそぼう!」を開催。来場者 150 万人達成記念式典&記念品抽選会のあと、アコースティックライブ等、子ども達が野外で楽しめる企画があり、主催者発表によると、来場者は約 1,100 人だった。

(委員)

(公財)宇治市野外活動センター代表理事として、ひとことお礼を申し上げたい。来場者 150 万人を式典の前日に達成することができた。宇治市民に換算すると、オープン以来、一人あたり 8 回来ていただいたことになる。年平均 9 万人、去年は 11 万人の来場があった。今後は質を上げ、リピーターを増やすために満足度を上げていきたい。経営の 10 年計画もでき、成熟社会に向けたアクトパル宇治の役割を果たしていきたいと考えているので、皆様にも一度足を運んでご意見いただきたい。

(委員)

夏休み子ども わくわくフェアについて、「今年から食品等販売団体はコーナーの出展者枠とは別途に依頼をした」ということだが、これはどういう意味か。

(事務局)

食品等販売団体は、一般公募ではなく、出展者をこちらで選定して依頼した。

(委員)

夏休み子ども わくわくフェアについて、将来的に、職員の負担軽減のために、まなびんぐのように実行委員会を立ち上げるような構想はあるのか。

(事務局)

まなびんぐは、実行委員会形式で、参加者と出展者双方にとって生涯学習の場となっている。子どもフェアは、まなびんぐのような形態で開催してきたが、これまでの反省をし、子ども達が主役で、コーナーの出展者は子ども達の楽しみを支える立場という考え方に立ち、フェア全体の企画運営は教育委員会が主体となって進めていくよう、変更をした。

2. 協議事項

➤ 宇治市スポーツ推進計画の進行管理について

(事務局)

平成 27 年 3 月に策定した宇治市スポーツ推進計画の進行管理については、生涯学習審議会において、毎年度点検・評価し、施策の効果・成果・課題の検証を行うこととしている。これに基づき、宇治市スポーツ振興計画見直し検討委員会の委員長に就任していただいた長積委員と事前に協議をした中で、「計画を見直したことで、何がどう変わったのか、新たな成果は何か」といった視点で報告書をまとめるようご指導いただいた。そこで、今回の報告は最初の 1 年間に実施した事業についてと、重点的に取り組んだ事業についてまとめた。平成 27 年度の実施事業は、例年とほぼ同様の内容になっており、スポーツ大会とスポーツ教室、またその他として、(一財)宇治市体育協会、宇治市体育振興会連合会、宇治市スポーツ少年団への支援をはじめ、様々な事業に取り組んできた。

次に、平成 27 年度は、プロスポーツ団体との協働の取り組みについて重点を置いて、実現可能性等を検討した結果、既存事業に工夫を加えることで、これまでの事業の充実を図り、スポーツの推進の取り組みを行うこととした。そこで、10 月の体育の日に実施する「市民スポーツまつり」事業において、例年の京都サンガ F.C.に加えて、新たに「京都ハナリーズ」と「京都フローラ」(女子プロ野球チーム)に協力依頼を行い、参加者がプロ選手と触れ合いながらスポーツを身近に楽しむことができる機会を創った。平成 27 年度に重点を置いて取り組んだ市民スポーツまつりにおける「プロスポーツ団体との協働の取り組み」は宇治市スポーツ推進計画に基づいた取り組みの新たな成果といえる。今後この取り組みの充実ができるように努めていきたい。

(委員)

ニュースポーツ広場について、地区の体育振興会である催しに宇治市から補助金が出ているので、そういう催しの参加者も参加者数に計算してはどうか。

(事務局)

行政主催の事業のみを計算している。委員のご意見もふまえ、書き方は今後検討したい。

➤ 今期のテーマについて

発表 1

(発表委員)

前回までの発表を聞いて、とても勉強になった。だが、いまだに公民館が貸館状態である問題が浮かび上がってくる。これは一面では宇治市民の学習意欲が強く、学習活動を継続していることの現れだと思うが、新しい学習者が使える部屋が空いていない。現在はコミセンなど様々な場所で学ぶことはできるが、人を育てたり、つないだり、公民館にしかできない機能もある。

そこで、公民館は生涯学習の場、学校はそれらを発表できる社会還元の間としてはどうか。子どもや孫が通う学校を実際に見に行くことは、地域の人にとって、子どもや孫の生

活を見に行く楽しみになる。子どもや孫が通っていなくても、避難所である学校に入り、そこを知ることが、非常時に学校に避難し、利用できる感覚を養うためにも有効である。また、地域の人々の出入りがあれば、出会いの場になり、お互いを知る機会にもなる。

私の提案としては、以上を踏まえ、学校で「大人の社会還元まつり」(ネーミングは仮、もっと人が集まりやすいものを考えたらいい)を行うことである。地域を知ること、若い世代にも少しでも地域愛を持ってもらえれば、もっと様々なことが地域のためにできると思う。例えば、公民館で地域を良く知ってもらうような年代別講座の開催など、仕掛けによって公民館に目を向け、地域に循環できればと思い、提案としたい。

(委員長)

地域が学校に入るには、学校側が受け入れてくれることが必要。平成 13 年の池田小学校の事件以来、地域に対して学校は閉ざされていた。最近は開かれてきているが、地域との関わり方は学校によって差がある。

(委員)

宇治小学校でも平成 15 年に事件があり、閉ざされていた時期があった。地域の人が、例えば将棋をさしに学校に入ってくることで学校を守るという話を聞いた。学校側からすれば慎重になる面もあるだろうが、しっかり管理できれば良い。

(委員)

宇治市では、図書館は 3 館あるが、いずれも交通の面では不便だ。学校と連携を取って、学校図書館の資料をデータベース化するなど、利用しやすい状況ができたと思う。以前あった移動図書館「そよかぜ号」の復活は難しいと思うが、学校の敷地を活用しての催しの開催など、本と人とのつながりの機会ができたらいいと考え、日々活動している。

(委員)

小倉小学校の校舎には、デイホームが入っているが、日本で初めてのことである。1 階がデイサービスセンターで、2、3 階はフリースペースが多く、抹茶席や将棋などにそれぞれ利用されている。民生委員としてボランティアで朝、お茶を淹れに行っていたが、昼休みには小学生が順番で遊びに来る。子どもの声が聞こえると、高齢者も元気になる。高齢者が将棋をさしたり、女性がパッチワークをしたり、予約をすればデイサービスの食事も摂れる。学校に地域の人が入り、子ども達も交じって、盛んに交流している。日本で初めてのことなので、他市町村からも見学に来られ、活気にあふれている。

(委員)

スポーツをするための学校開放でも同じように、少数団体による独占状態という問題がある。多くの団体がつながって、限られた共有スペースをうまく利用できる仕組みづくりが必要だと思う。どう人をつなぎ、誰が中心になっていくかが重要。愛知県のある地域で、学校開放を前提とした施設が作られ、小学校内にラウンジがあり、食事・飲酒もできる。

条例の整備などしないといけないが、地域のニーズを捉えて運営することが肝心だ。

(委員)

公民館で抽選をしてもなかなか部屋が取れない状況がある。中学校の授業でテニスを教えているならば、中学校のコートが空いている時間帯に使ってもらいたい。黄檗学園になる前の宇治小学校では、職員会議等の時間に子どもの様子を見られないので、地域のソフトボールクラブにグラウンドを使ってもらい、見守りをしてもらっていたことがある。また、空き教室が実際どのくらいあるのか、公民館の部屋が足りないと言われるが、使える場所はあると思う。学校内の空き教室を教育委員会でうまく活用できないか。

(委員長)

教育委員会の考え方はどうか。地域と学校をつないでいく議論はされているのか。

(事務局)

小倉小学校や平盛小学校のデイサービス、西宇治中学校の学校開放など、個々にはあるが一般的な形にはなっていない。スポーツの分野では学校開放は進んでいる。

(委員)

スポーツの利用では、平日の夜間や土日の体育館はいっぱいの状態だ。

(委員長)

文科省はそこをつなぐ方向を提案しているが、なかなか進まないものなのか。

(委員)

以前、宇治小学校は校門からコミセン側に抜ける道が近道になっていて、地域の人が体育の授業をしている横を通り道にしていた。職員会議や育成学級の時に、誰も見ていないところで遊ぶ子もいて、地域のソフトボールクラブに入ってもらった経緯があった。子どもの居場所づくり事業が始まるよりも前、今から 20 年ほど前のことである。

(委員)

小倉小学校も南陵町と正門の裏道でつながっている近道があり、地域の人が学校内を通っていた。北宇治中にも同じような場所がある。小倉小学校の体育館は、土曜日は子どもに開放している。松本遊び塾の開催や、立命館の高校生が来たりして、土曜日の開放は長く続いている。

(委員長)

昔は、学校は地域に開かれていたが、問題が起きた時の責任問題などでなかなか積極的にできなくなった。時代的に市民の受け止め方や「個人化」の流れがあり、リスクを先に考えてしまう。しかし、一方で自分の興味のあることはやりたいという意識は強い。

発表 2

(発表委員)

今期のテーマは「人づくり」ということであるが、これまでの発表では、地域の後継者づくり、仕掛けづくり、公民館の一部の人のみの利用など、様々なキーワードが出てきた。私はやはり、公民館について考えていきたい。第 6 期で現状の多くの問題を取り上げ、良い報告書ができたが、実現にはまだまだ遠い。今回は 4 つの提案をしたい。人づくり。学校・地域・社会の関係をつなげるコーディネーターの養成、学校教育と社会教育の関係者による連絡会を設置すること。行政の力で人をつなげ、社会教育施設を活用させること。

高齢者の学びや、活力を使ってまちづくりを推進していくこと。生きがいを見つけるために活動を模索する。こういったことが公民館でできれば良い。防災拠点としての社会教育施設の活用も進めたい。最後に、「生涯学習」という言葉の知名度アップを目指したい。第 6 期の提案で言われてきたことだが、もう一度ここで挙げていき、何かひとつでも実現したいと思っている。

(委員長)

(仮称)宇治川太閤堤跡歴史公園の話が止まっているが、公民館での活動につながることで、宇治公民館の機能移転の問題は現在どうなっているか。

(事務局)

第 6 期で機能移転の考え方について意見をいただき、(仮称)宇治川太閤堤跡歴史公園への宇治公民館の機能移転について議論を進めてきた。今年 3 月の議会で、今後 20 年間についての予算は承認されず、この問題は宙に浮いた形になった。これは前回の審議会で説明したが、状況は変わっていない。庁内で調整はしているが、やはりきわめて厳しい状況にある。

(委員長)

公民館をどう考えるかは、我々の関心が集まる場所であり、我々としても意見の集約が必要だ。宇治公民館の機能移転の問題は、その後進んでいないということだが、我々の知らない所で方針が決まってしまうようお願いしたい。

(委員)

公民館は防災の拠点や、学校との協働など、社会教育において重要な施設である。今回の機能移転の件で、観光事業と地域の公民館活動を一緒にやろうという話が出て、これも面白いと思う。いろいろと問題が出ているが、公民館機能を持った別の施設でも、生涯学習活動、社会還元活動ができるのであれば、多少容量が小さくてもいいと思う。場所の選定は難しい問題だと思うが、地域的な考慮もしてほしい。個人的な案では、(仮称)宇治川太閤堤跡歴史公園は、3 階建ての案があったが 2 階建てにして費用を押さえ、宇治公民館も 2 階建てにし、同じ場所で容量が少なくなっても、活動が継続できればと思う。公民館機能がなくなることは避けてほしい。費用対効果の問題もあろうが、公共施設を建て

るのは、30年後のことを考えていけないといけない。その頃は人口も減り、少子高齢社会から多死社会になっているかもしれない。同一の機能で他の場所でという案も考えていく必要があるのでは。国からの費用も必要で、宇治市単独でするのは難しいだろう。

(委員長)

昨日五山の送り火がテレビ中継されていたが、私自身これまであまり知らなかった。今でこそ観光になって人が集まっているが、ずっと土地に根差して続いている市民の伝統的な活動であった。地域の活動の継続についても考えていく必要がある。

(委員)

今の話から考えると、行政の仕組みと地域住民の生活権益を考えていく必要がある。兵庫県が各小学校に地域スポーツクラブを作った。生活との密着という面では、他地域の人が使うという問題や地元の人思いもある。公民館と学校は相互補完的なものだと思う。

(委員長)

スポーツであれば子どもを育てていくという面がはっきり見えるが、学校で地域がまとまり、市民が活動し、子どもを巻き込んでいくものを行政がオーソライズすることができると思う。学校側の捉え方が大きな要素で、我々からはもっと推進すべきものにみえるが、各学校に任されているように感じる。地域の団体が力を持っているところは、学校の中で機能している例があるが、全体として行政が担おうとしていないことが問題ではないか。

(委員)

学校開放は教育委員会が統括しているのでは。

(事務局)

学校開放運営委員会は教育委員会の所管である。

(委員)

学校開放運営委員会は、学校で使う施設をいつどの団体が使うかを集約する組織体だと思うが、資源も予算を持っていない。これを事業体のような形にし、施設使用の調整だけでなく、意見の調整などを行えば、学校をうまく地域に活かせるのではないか。予算上難しいかもしれないが。

(委員)

学校開放運営委員会が宇治市から補助金をもらって、用具の修繕や補充をしている。バレーボールのネットなど、学校の授業でも、学校開放でも、市民も使えるものを学校開放の資金で賄うなどしている。トイレを耐震補強で新しくしたが、土が入るのでトイレのスリッパが必要になった。みんなが使うものなので、最終的には学校開放の費用で買った。また、網が破れた時に学校教育で破れたのか学校開放で破れたのかわからない。どこが買

うのか話し合い、結局学校開放で買うことになった。学校開放の運営も、校長・教頭先生に負担がかからないようにしたい。土日も出てきて、休む暇もないようなので。

(事務局)

学校開放運営委員会は委託で、学校教育以外で使用するための費用だが、確かにどちらで使うかの線引きは難しいこともある。

(委員長)

学校を地域に開くにも、学校に負担がかかると、協力しにくくなるだろう。中に入って精力的に取り仕切ってくれる人がいたら学校側もいいことだと認識できるだろうが、なかなかそこまで持っていけないと思う。

(委員)

学校と住民の意見が違う時に、先生などの学校現場を飛び越えて、住民が直接教育委員会に話すことがある。学校開放運営委員会や各種の団体が、間に立つことも必要と思う。

(委員長)

結局は公民をどう育てるのが大きい問題だと思う。個人化が進んでいく流れを皆が認識できるか。公民館が担うべきだと思うのだが、なかなか公民館を動かすこと自体も難しくなっている。学校でそれができればと思うのだが。

(委員)

地域によって課題は違う。生活していく中で子育てや仕事など、行政機関は縦割りだが、地域ではそうではない。福祉、教育、スポーツと分かれていると解決が難しい。縦割りではなく、全てがつながって解決できる仕組みが必要だと思う。

(委員長)

確かにその通りだ。行政だけではなく、全てが専門化している。市民はその影響を受ける。これを解決するのは大きな課題であると思う。

(委員)

少し前にポケモン GO が話題になったが、こういうゲームは個人で、家で遊ぶものだが、スマホを持って人を外に出したことが画期的だと思う。扇町公園では、夜はあまり人がいなかったが、今はいっぱい、ポケモンを捕まえるとその場にいるみんなで共有する。個別の身体が出会いの場で融合し、空間が「身体化」されていくという現象であり、それをみんなが求めている。公園などで個々人が散歩などするのは違う。公民館も、各人が個々に利用しているのだが、空間が「身体化」されていない。ポケモン GO は、遠方からも人が集まり、この「身体化」を求める。これを参考に、公民館が出会いの場として機能することで、人々が地域の中でつながり再生する機能を担うことも考えられるのでは。

また、「学校開放」という言葉についても、ポケモンGOで入ってはいけない空間があることをみんなが認識した。開かれているようでも壁があり、学校も入っては行けない場所なので、「開放」という言葉が使われる。このことも根本的に考えていかなければならない。伊勢神宮にポケモンが出るので、みんなで行こうという話が出た時に、伊勢神宮では対応に困ったが、「神宮では生き物を捕まえることはできませんし、入ってはいけない場所もあります。森の中でポケモンはそっとしておいてください。ポケモンはお参りしているので捕まえないでください。」というような粹なメッセージを発信した。人が来ること自体は歓迎なので、禁止ではなく工夫をした。この「ゆるやかな壁」は我々にも必要だと思う。先ほど出た宇治小学校も、開いて守るといふ、そういう施設の在り方を考える機会となった。

(委員)

ポケモンを集めると何か賞品がもらえるのか。

(委員長)

賞品などはなく、自己満足が主である。みんなが外に出て、レアなものを捕まえたがる。同じ目的で集まった人が共有できる場を作るといふ効果もある。

(委員)

皆さんの意見を聞き、比較しながら考えていたが、笠取に住んでいると他の地域とは違うと感じる。「学校開放」といふが、うちの地域の学校はいつも開いている。誰かがいつもぶらぶらと見回っている。その面では人がつながっていて、守られた地域なのかなと感じる。今日スーパーで昼食を買っていたら、カートを集めている職員が、「今日は暑かったね」と言ってくれて、そこで5分ほど世間話が始まった。知らない人と出会い、交流があり、心地良かった。今年は小学校から先生と子ども達がどんどん地域に出ている。今までは地域の方が学校に来ていたが、学校も努力して出ていき、地域の方と接しようとしている。

(委員長)

ある本を読んでいて、日本で子育てをしている人が、人とつながれずに悩んで、アメリカに渡った。アメリカでよく話しかけられたが、その例で「あなたにそっくりね、そんなに似ていたら心強いでしょう」と言われて心が温まった、なぜ日本ではこういうことがないのだろうと書いてあった。確かに日本は心が貧しくなったと思う。海外で活動するカメラマンに、アジアでもヨーロッパでも子どもが寄ってくるが、日本との差はなんだろうか。

(委員)

笠取の人と話したことがあるが、笠取地域では、子どもの安全確保は難しくない。不審者がいたらすぐわかる。一番心配なのはJR黄檗駅でバスを待っている時だと話していた。

(委員)

笠取で、ある時地域の人から電話がかかってきて、小学校のプールで若者が遊んでいる

ので見に行ってくれと言われた。アクトパルの前の川でバーベキューをしている 20 人くらいの学生がいて、その数人がプールで野菜を洗っていた。私が「みんな見てないよで見ているよ」と注意するとその学生は素直に謝っていた。

(委員)

笠取地域は人の出入りがあったいいところだ。優しい人も怖い人もいて、地域の人と接すると子どもは多くのことを学び、大規模な学校に入っても、うまく人間関係を作れる。「社会的親」がいかに重要か感じる。都市部の子は実親と先生しか知らない。大人がおせっかいで注意するということは、普段から学校に大人が入っていないとできない。もっと大人が関わって地域とつながっていかないと、様々な問題が起こる。笠取地区はそのモデルケースだ。当たり前すぎて「学校開放」という言葉は無いと思う。

(委員)

府内某レジャー施設のプールで毎年夏だけ働いているが、今年ほど親子のモラルがひどいと感じたことはない。1 時間に 10 分の休憩時間に何度アナウンスで注意をしてもプールから上がらない。外で子どもが着替える。ある意味虐待だと思うが、親が着替えさせている。更衣室に行かずロッカールームで着替える、職員が注意してもきょとんとしている、中学生の女子でも芝生の上で着替える。恥ずかしいという感覚、公共という意識が無くなっている。家庭での教育に問題があるのではないか。自分の欲求が通らないと相手を責める。異常な事態だと思うので、切実に社会教育は急務だと感じた。笠取の例を聞いたので、どんな形でも何かできないかと思っている。

(委員)

他のレジャー施設のプールに行ったがそんなことはなかった。親子がほとんどいず、カップルや若者同士が多かったが、その方がルールを守れるのか。

(委員)

去年までは監視員の呼びかけで足りたので、放送まですることはなかった。この一年で何があったかと思うほど、今年は何回放送で注意しても聞かない。職員もたくさんいるが、笛を吹いて注意しても全く意に介さない。若者よりも親子連れが言うことを聞かない。何とかしないと、その子ども達が大人になってしまうと大変な事態になるのでは。

(委員)

近隣市にある施設のキッズルームでも 2~3 時間に 10 分の清掃時間があつたが、利用者はきちり守っていた。職員が見回って、入れ替えをしていた。

(委員長)

ルールを守れない人が一定数以上いたのかもしれない。ごく少数ならば他のルールを守る人達に流されるだろう。

(委員)

今年は特にそう感じた。いろいろな面で社会教育は急務だ。

(事務局)

今回は、学識経験者からの今期のまとめの発表をしていただく。次回でひと通りの材料が出そう。その後残り 3 回で今期の報告書としてまとめていくことになる。たくさんの課題をいただいている中で、形にできるものを探っていきたい。

3. その他

➤ 平成 28 年度近畿地区社会教育研究大会(滋賀大会)について

(事務局)

9 月 9 日(金)大津市民会館他にて開催。9 時に議会棟前出発の予定。7 名の委員から参加申込を受けている。本日、参加される委員には分科会の会場の案内を配布している。

➤ 第 58 回全国社会教育研究大会(千葉大会)について

(事務局)

10 月 27 日(木)・28 日(金)千葉県文化会館等。2 名の参加申込を受けている。

➤ 平成 28 年度やましろ未来っこみんなで HUG フォーラムについて

(事務局)

8 月 28 日(日)13 時から 16 時半、久御山町中央公民館にて開催。今回は、森川委員長が講演される。6 名の委員より参加申込を受けている。公用バスの送迎は、教育支援課が取りまとめる青少年健全育成協議会の委員と同乗してもらう。

➤ 「源氏ろまん 2016」基本方針及び事業計画について

(事務局)

10 月 15 日(土)源氏物語セミナーを皮切りに、宇治田楽まつり、宇治十帖スタンプラリー、第 26 回紫式部文学賞・紫式部市民文化賞贈呈式及び記念イベント、受賞記念パーティーが開催される。また、同時開催で様々な企画が行われる。

➤ 最後に

(委員長職務代理)

本日も様々な意見が交わされたが、社会教育は急務だという話題が出た。次回の発表も内容のあるものになりそうで、議論が深まりそうだ。

< 次回の会議について >

平成 28 年 10 月 14 日(金)午後 2 時から 生涯学習センターにて